

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	理工学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(院)(専門)

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 社会に貢献できる研究者・技術者を育成するため、学生が学会や論文などで研究発表できるよう指導を行う。	→就職状況、研究成果の公表・特許の出願状況、日本学術振興会の特別研究員採用人数。	B	B	A	A	A
2. キャリアパスを学生に周知させる。	→キャリアセミナーの開催状況。	B	B	A	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 各教員が学生を指導し外部発表の機会を積極的に与える。英語プレゼンテーションスキル講座への参加を積極的に促している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度は査読付論文231件、海外での学会発表226件(うち学生自身が発表したもの137件)、特許出願28件があった。日本学術振興会特別研究員に3名が採用された。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 引き続き学外で現状を維持する。	☆
		その他	☆
			☆

目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか          学生のキャリアパス形成を周知させるため毎年キャリアセンターが主催して9回の理系就職セミナー、6回の文系就職セミナーを行っている。2013年度はこれに加えて大学院オープンキャンパスで大規模なロールモデル懇談会を開催し、卒業生等を迎えて懇談会形式でキャリアについて懇談した。また、2011年度に経営戦略研究科と共同で「研究型ベンチャー創成」を開講した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か          キャリアセミナー、ロールモデル懇談会の満足度はアンケートではいずれも高いものであった。2013年度院卒の就職率は99.7%、就職者の中で研究・開発系に進んだ者の割合は28.9%であった。また、就職者の中で理数系の教員の割合は6.3%であった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か          各種イベントは継続して行う。また、女子学生については保護者に的確な情報を提供し適切なキャリアパスが選択できるような仕組みを整える必要がある。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
備考			☆